

システム名	MSP
ソフトウェア 略称	VF-FILECOMP
適用 バージョン・レベル	V20L20
製品コード	A93168A0-2020-1

# ソフトウェア説明書

OSIV/MSP

SIMPLIA/VF-FILECOMP V20



ま え が き

本ソフトウェア説明書は、

S I M P L I A / V F - F I L E C O M P V 2 0

について説明したものです。ソフトウェアの使用に先立ち、本書をご一読ください。

本ソフトウェアのインストールを実施するにあたり、その2週間前までに当社技術員から本ソフトウェアの最新保守情報をお取り寄せのうえ、インストールを実施頂くようお願い致します。また、ご不明な点は当社の技術員にお問い合わせください。

なお、本書で用いる記号の意味は次のとおりです。

- ◆参照 → 本書中の参照箇所を示しています。
- ◆【】 “適用マニュアル”に記載されているマニュアルの参照箇所を示しています。  
例：◆【1】 1.2 …… “適用マニュアル”第1項のマニュアルの1.2 を参照。

2014年12月

富士通株式会社

目 次

1.	機能概要 .....	1
2.	構成プログラム .....	2
3.	適用マニュアル .....	2
4.	新機能 .....	3
5.	制限事項 .....	4
6.	ソフトウェア組合せ条件 .....	4
7.	入出力装置 .....	4
8.	提供媒体形式と内容 .....	5
9.	D A S D所要量 .....	6
1 0.	インストラクションの手引 .....	7
1 1.	稼働確認 .....	1 5
1 2.	日本語名標辞書データ変換プログラム .....	2 1
1 3.	適用マニュアルの正誤表 .....	2 5
1 4.	プログラム修正事項 .....	3 9

## 1. 機能概要

このソフトウェアは以下の機能を備えている。

詳細は、本書の“3. 適用マニュアル”に記載のマニュアルを参照する。

OSIV/MSP SIMPLIA/VF-FILECOMP (SIMple development & maintenance support Program Libraries for Application system/Verification Facility of FILE COMPare tool) は、ファイルの変更状況の確認を支援するツールである。

VF-FILECOMP が出力するドキュメントから、ファイルの変更前と変更後の変更箇所とその変更内容を知ることができ、ファイルの変更状況を正確に把握することができる。

SIMPLIA/VF-FILECOMP は以下の機能を持つ。

### 1. 1 ファイル比較チェックリスト出力機能

#### 1. 1. 1 比較レコード抽出機能

比較するレコードの指定方法には、以下の三つの機能がある。

- － レコード件数指定
- － ページ数指定
- － 抽出キー値指定

#### 1. 1. 2 比較範囲の設定機能

比較対象レコード中の特定範囲だけを比較対象としたり、特定範囲だけを比較対象から外したりする機能である。

#### 1. 1. 3 ファイル比較機能

入力するデータに合わせて、以下の五つの機能がある。

- － 同一キーを意識した比較
- － 数字データ項目の符号を意識した比較
- － 制御文字を意識した比較
- － SPACE とLOW-VALUE を意識した比較
- － FILLERを意識した比較

#### 1. 1. 4 リスト出力機能

比較結果をドキュメント出力する機能である。ドキュメントの形式には以下の三つがある。

- － コピー句を利用したコピー句形式
- － 50バイトずつのダンプ形式
- － 不一致レコードのレコードナンバーのみのアウトライン形式

### 1. 2 抽出レコードファイル出力機能

#### 1. 2. 1 比較レコード抽出機能

抽出するレコードの指定方法には、以下の三つの機能がある。

- － レコード件数指定
- － ページ数指定
- － 抽出キー値指定

#### 1. 2. 2 ファイル出力機能

データファイルまたは出力リストから抽出した比較対象レコードを、抽出レコードファイルに出力する機能である。

## 2. 構成プログラム

このソフトウェアは、表2.1 に示すプログラムから構成されている。

表2.1 構成プログラム

項番	分類	プログラム名	バージョン・レベル	備考
1	SIMPLIA/ VF- FILECOMP	JSMVF000	V20L20	
		JSMVDICT	V20L20	日本語名標辞書変換用

## 3. 適用マニュアル

このソフトウェアに適用されるマニュアルは表3.1 に示すとおりである。

表3.1 適用マニュアル

項番	マニュアル名称	マニュアルコード	備考
1	OSIV SIMPLIA/VF-FILECOMP 解説書	70AR-9910-2	

## 4. 新機能

このソフトウェアでは、以前のバージョンレベルに対して、次のような機能追加および改良が行われている。

### 4. 1 V20L11で行われた機能追加・改良

#### 4. 1. 1 COBOL85 V12新記述の対応

- コピー句中にPOINTER 付きUSAGE 句が記述されている場合には、メッセージを出力して、処理を中止する。
- コピー句中にCOMPUTATIONAL-4 が記述されている場合には、2進数として扱う。
- コピー句中にBASED ON句が記述されている場合には、メッセージを出力して、処理を中止する。
- コピー句中にCHARACTER TYPE句の書き方3が記述されている場合には、メッセージを出力して、処理を中止する。
- コピー句中に位置決め単位名付きのPRINTING POSITION 句が記述されている場合には、メッセージを出力して、処理を中止する。

#### 4. 1. 2 ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力機能を使用する場合に以下の実行時オプションが追加となった。

- JLANG・・・入力データの不一致箇所に日本語データが現れた場合、日本語に置き換えて帳票出力したい場合に指定する。
- ELANG・・・入力データの不一致箇所を全てEBCDIC表示で帳票出力したい場合に指定する。

当オプションを省略した場合は、JLANG オプションを指定したものとみなす。

#### 4. 1. 3 ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力機能を使用する場合に以下の実行時オプションが追加となった。

- HEX・・・入力データの不一致箇所にHEX表示が必要な場合に指定する。
- NOHEX・・・入力データの不一致箇所にHEX表示が不要な場合に指定する。

当オプションを省略した場合は、HEX オプションを指定したものとみなす。

上記二つの指定方法は以下に示すとおりである。下線部は追加となった実行時オプションである。

```
// PARM='FCHECK(DETAILLIST=(0:0)),JLANG, HEX, HANYO'
```

### 4. 2 V20L12で行われた機能追加・改良

#### 4. 2. 1 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式、ダンプ形式）出力機能の不一致レコードの出力順SEQ 番号を5桁から8桁に改良した。

#### 4. 2. 2 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式、ダンプ形式、アウトライン形式）出力機能の不一致レコードのレコード番号を5桁から8桁に改良した。

#### 4. 2. 3 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式、ダンプ形式、アウトライン形式）出力機能および抽出レコードファイル出力機能の各合計出力欄を5桁から8桁に改良した。

#### 4. 2. 4 ファイル比較チェックリスト（アウトライン形式）出力機能で一行に出力できるレコード番号を20件から13件に改良した。

#### 4. 2. 5 ファイル比較チェックリスト出力機能および抽出レコードファイル出力機能の-RECORD（レコード選択）補助制御文のCOUNT オペランドおよびPAGEオペランドに対する-DATA（実値宣言）補助制御文の実値を5桁から8桁に改良した。

### 4. 3 V20L20で行われた機能追加・改良

#### 4. 3. 1 ファイル比較チェックリスト出力機能において、KEY オペランド指定による同一キーを意識した比較の性能を改善した。

- 作業用データセット（JSMVF003, JSMVF004 DD名）の必要容量削減
- ソート作業用データセット（SORTWK01~04 DD名）の必要容量削減

#### 4. 3. 2 ファイル比較チェックリスト出力機能において、不一致レコードが存在した場合、最大重大度コードが軽度のエラーになるように改良した。

- 改良前：00
- 改良後：04（軽度のエラー）

最大重大度コードを利用している場合には注意されたい。

## 5. 制限事項

このソフトウェアでは、マニュアルに記載の事項のうち、使用を制限しているものがある。

これらの制限事項の内容とその代行方法・解除予定を表5.1 に示す。

表5.1 制限事項

項番	制 限 事 項	備考( 代行方法, その他)	解除予定
1	本ソフトウェアを認定ライブラリにインストールするまたはインストールしたロードモジュールライブラリを認定ライブラリとして使用することはできない。	ジョブ制御文のJOBLIBまたはSTEP LIB DD文に本ソフトウェアを格納しているロードモジュールライブラリを指定して実行する。	な し
2	SYSIN制御文の-RECORD(レコード選択)補助制御文にKEYオペランドまたはCONDオペランド指定時、COBOLプログラムが、"JMP0601I-U"のエラーメッセージを発行する場合がある。	ソート作業用データセット(SORTWK01~SORTWK04)の領域を大きくするか、COBOLプログラムの実行時オプションのSMSIZEに129K以上を指定する。SMSIZEオプションは、以下のように指定する。  (指定例) //FILECOMP EXEC PGM=JSMVF00, REGION=2048K, // PARM='FCHECK(OUTLINELIST)/SMSIZE(129K)'	未 定

## 6. ソフトウェア組合せ条件

このソフトウェアを使用するときに必要なソフトウェアは以下のとおりである。

表6.1 ソフトウェア組合せ条件

必要ソフトウェア	適用V/L	必 要 条 件		備 考
		必 須	任 意	
AF II	V10L10以降	○		
COBOL 85	V12L10以降	○		
ソートマージ	V10L30以降	○		
ADJUST	V10L50以降	○		V10L50の場合は、PTFレベルL89061以降が必要
JEF基本辞書	V01L92以降	○		
GEM	V10L30以降		○	コピーライブラリがGEM の場合

## 7. 入出力装置

— プリンタの対応機種は以下のとおり。ただし、水平スキップ機能と拡張印刷機構が必要である。

NLP : F6700D, F6700E, F6712E, F6715E, F6718C,  
F6718D, F6718K

CLP : F6722D, F6724C, F6724D



## 8. 提供媒体形式と内容

このソフトウェアで提供される媒体の内容は、表8.1 から表8.2 に示すとおりである。

表8.1 提供媒体形式

ラベル形式	ボリューム通し番号	データセット数	巻数
SL	FM2020	8	1

表8.2 提供媒体内容

格納順番	データセット名	内 容
1	FILECOMP. JCL	提供 J C L ファイル (インストール用ジョブ制御文, 実行用ジョブ制御文) のJSECOPY のアンロード版
2	FILECOMP. LOAD	ロードモジュールライブラリのJSECOPY のアンロード版
3	TEST. COPYLIB	稼働確認用コピーライブラリのJSECOPY のアンロード版
4	OLD. FILE	稼働確認用旧データファイルのJSDGENERのアンロード版
5	NEW. FILE	稼働確認用新データファイルのJSDGENERのアンロード版
6	FILECOMP. NDICT	稼働確認用日本語名標辞書のJSDGENERのアンロード版
7	FILECOMP. UTYPLOAD	日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールライブラリのJSECOPY のアンロード版 ◆参照 → 12
8	FILECOMP. UTYPJCL	日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のJSDGENERのアンロード版 ◆参照 → 12

## 9. DASD所要量

このソフトウェアのインストールを完了したときのDASD所要量の見積りは表9.1 に示すとおりである。

表9.1 DASD所要量

単位は各々次のとおり。  
 レコード長, ブロック長 : バイト  
 ディレクトリ : ブロック  
 DASD所要量 : トラック

項 番	データセット名		データセット形式 レコード形式 レコード長 ブロック長	算 出 式			備 考
	標 準 名	変 更 可 否		ディレ クトリ	DASD所要量		
					F6421	F6425	
1	FILECOMP. JCL	可	区分編成 FB 80 3120	2	3	2	
2	FILECOMP. LOAD	可	区分編成 U 0 6144	48	105	70	
3	TEST. COPYLIB	可	区分編成 FB 80 3120	1	2	1	
4	OLD. FILE	可	順 編 成 F 100 100	0	1	1	
5	NEW. FILE	可	順 編 成 F 100 100	0	1	1	
6	FILECOMP. NDICT	可	順 編 成 FB 94 940	0	2	1	
7	FILECOMP. UTYLOAD	可	区分編成 U 0 6144	1	2	1	
8	FILECOMP. UTYJCL	可	順 編 成 FB 80 3120	0	2	1	

## 10. インストレーションの手引

このソフトウェアをインストールするための手順を説明する。

この章で使用しているDASD使用量は、すべてF6425換算である。

インストール手順を図10.1に示す。

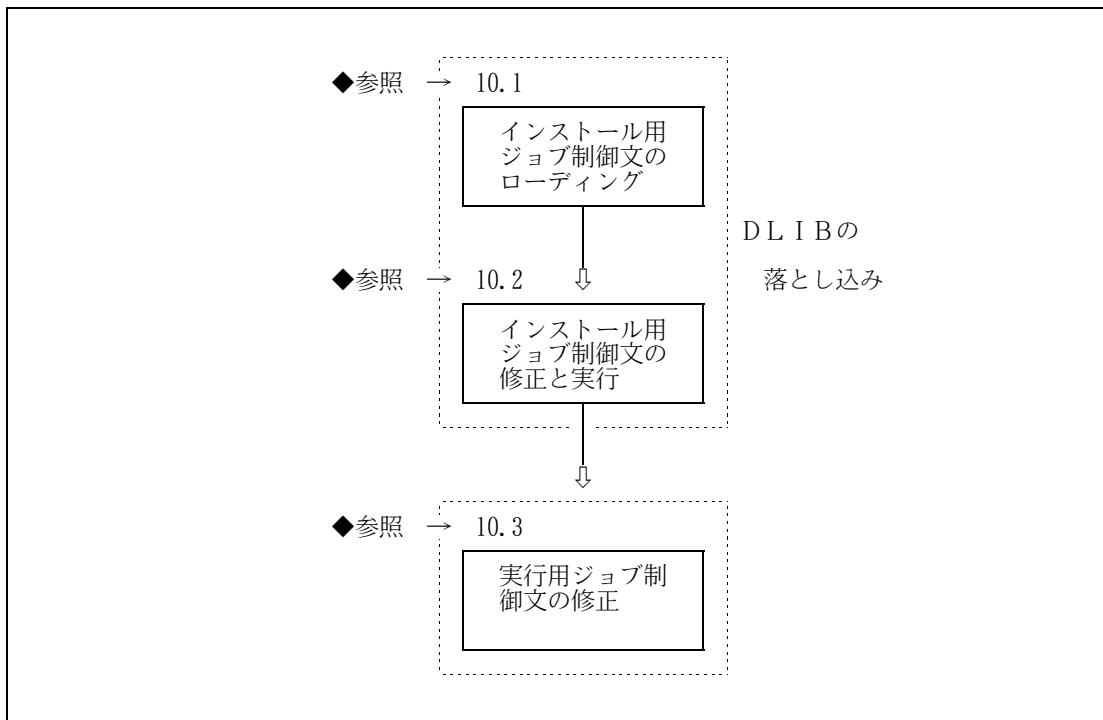


図10.1 インストール手順

## 10.1 インストール用ジョブ制御文のローディング

インストール用ジョブ制御文は、提供 JCL ファイルのメンバとして提供している。

### 10.1.1 磁気テープ媒体からのローディング

磁気テープ媒体の提供 JCL をローディングするジョブ制御文の例を図10.2に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
//USER01A JOB XXXXX, CLASS=H, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT, DTSP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=FILECOMP. JCL, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(01, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. FILECOMP. JCL, DISP=(NEW, CATLG),
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (2, 1, 2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図10.2 磁気テープ媒体からローディングするジョブ制御文 (例)

- ① VF-FILECOMPの提供 JCL ファイル (インストール用ジョブ制御文, 実行用ジョブ制御文) のデータセット名。

### 10.1.2 DVD媒体からのローディング

DVD媒体の提供 JCL をローディングするジョブ制御文の例を図10.3に示す。下線部は修正箇所である。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```
//USER01A JOB XXXXX, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT, DTSP=SHR
//INST01 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=FILECOMP. JCL, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
// VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. FILECOMP. JCL, DISP=(NEW, CATLG),
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01, SPACE=(TRK, (2, 1, 2))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//
```

図10.3 DVD媒体からローディングするジョブ制御文 (例)

- ① VF-FILECOMPの提供 JCL ファイル (インストール用ジョブ制御文, 実行用ジョブ制御文) のデータセット名。

#### [注意事項]

DVD媒体の内容はDASDに転送されていることが前提である。DVD媒体からDASDへの転送については、DVD適用手順書を参照されたい。

## 10.2 インストール用ジョブ制御文の修正と実行

インストールするシステムに応じ、インストール用ジョブ制御文を修正し、実行する。

### 10.2.1 磁気テープ媒体からのインストール

磁気テープ媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図10.4に示す。提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL'である。下線部は修正箇所を示す。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

```

//USER01A JOB XXXXX, CLASS=H, MSGCLASS=R
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT, DTSP=SHR
//REST01 EXEC PGM=JSECOPI
//IN01 DD DSN=FILECOMP. LOAD, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(02, SL)
//IN02 DD DSN=TEST. COPYLIB, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(03, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. FILECOMP. LOAD, DISP=(NEW, CATLG), _____ ①
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// SPACE=(TRK, (70, 1, 48), RLSE)
//OUT02 DD DSN=USER01. TEST. COPYLIB, DISP=(NEW, CATLG), _____ ②
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// SPACE=(TRK, (1, 1, 1))
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
COPY INDD=IN02, OUTDD=OUT02
/*
//REST02 EXEC PGM=JSDGENER
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS UT1 DD DSN=OLD. FILE, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(04, SL)
//SYS UT2 DD DSN=USER01. OLD. FILE, DISP=(NEW, CATLG), _____ ③
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYS IN DD DUMMY
/*
//REST03 EXEC PGM=JSDGENER
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS UT1 DD DSN=NEW. FILE, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(05, SL)
//SYS UT2 DD DSN=USER01. NEW. FILE, DISP=(NEW, CATLG), _____ ④
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYS IN DD DUMMY
/*
//REST04 EXEC PGM=JSDGENER
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS UT1 DD DSN=FILECOMP. NDICT, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(06, SL)
//SYS UT2 DD DSN=USER01. FILECOMP. NDICT, DISP=(NEW, CATLG), _____ ⑤
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYS IN DD DUMMY
/*
//REST05 EXEC PGM=JSECOPI
//IN01 DD DSN=FILECOMP. UT YLOAD, DISP=(OLD, PASS),
// UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(07, SL)
//OUT01 DD DSN=USER01. FILECOMP. UT YLOAD, DISP=(NEW, CATLG), _____ ⑥
// UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
// SPACE=(TRK, (1, 1, 1))
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*

```

図10.4 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文 (続く)

```

//REST06 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=FILECOMP. UTYJCL, DISP=(OLD, PASS),
//          UNIT=MT, VOL=SER=FM2020, LABEL=(08, SL)
//SYSUT2 DD DSN=USER01. FILECOMP. UTYJCL, DISP=(NEW, CATLG), ⑦
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//          SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSIN DD DUMMY
/*
//

```

図10.4 磁気テープ媒体からのインストール用ジョブ制御文 (続き)

- ① VF-FILECOMPのロードモジュールライブラリのデータセット名.
- ② VF-FILECOMPの稼働確認用コピーライブラリのデータセット名.
- ③ VF-FILECOMPの稼働確認用旧データファイルのデータセット名.
- ④ VF-FILECOMPの稼働確認用新データファイルのデータセット名.
- ⑤ VF-FILECOMPの稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名.
- ⑥ 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールライブラリのデータセット名.
- ⑦ 日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のデータセット名.

### 10.2.2 DVD媒体からのインストール

DVD媒体からインストールする場合のインストール用ジョブ制御文を図10.5に示す. 提供JCLファイル中のメンバ名は'INSTALL2'である. 下線部は修正箇所を示す. なお, 下線が引かれていない部分でも, システムに合わせて装置名などを変更する.

```

//USER01A JOB XXXXX, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBCAT DD DSN=N8UCAT, DISP=SHR
//REST01 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=FILECOMP. LOAD, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DVDVOL
//IN02 DD DSN=TEST. COPYLIB, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01. FILECOMP. LOAD, DISP=(NEW, CATLG), ①
//      UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//      SPACE=(TRK, (70, 1, 48), RLSE)
//OUT02 DD DSN=USER01. TEST. COPYLIB, DISP=(NEW, CATLG), ②
//      UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//      SPACE=(TRK, (1, 1, 1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
//      COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
//      COPY INDD=IN02, OUTDD=OUT02
/*
//REST02 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=OLD. FILE, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01. OLD. FILE, DISP=(NEW, CATLG), ③
//      UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//      SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSIN DD DUMMY
/*
//REST03 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=NEW. FILE, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//      VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01. NEW. FILE, DISP=(NEW, CATLG), ④
//      UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//      SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSIN DD DUMMY
/*

```

図10.5 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文 (続く)

```

//REST04 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=FILECOMP.NDICT, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01.FILECOMP.NDICT, DISP=(NEW, CATLG), ⑤
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//          SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSIN DD DUMMY
/*
//REST05 EXEC PGM=JSECOPY
//IN01 DD DSN=FILECOMP.UTYLOAD, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=DVDVOL
//OUT01 DD DSN=USER01.FILECOMP.UTYLOAD, DISP=(NEW, CATLG), ⑥
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//          SPACE=(TRK, (1, 1, 1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
COPY INDD=IN01, OUTDD=OUT01
/*
//REST06 EXEC PGM=JSDGENER
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSUT1 DD DSN=FILECOMP.UTYJCL, DISP=OLD, UNIT=SYSDA,
//          VOL=SER=DVDVOL
//SYSUT2 DD DSN=USER01.FILECOMP.UTYJCL, DISP=(NEW, CATLG), ⑦
//          UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01,
//          SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSIN DD DUMMY
/*
//

```

図10.5 DVD媒体からのインストール用ジョブ制御文 (続き)

- ① VF-F I L E C O M Pのロードモジュールライブラリのデータセット名.
- ② VF-F I L E C O M Pの稼働確認用コピーライブラリのデータセット名.
- ③ VF-F I L E C O M Pの稼働確認用旧データファイルのデータセット名.
- ④ VF-F I L E C O M Pの稼働確認用新データファイルのデータセット名.
- ⑤ VF-F I L E C O M Pの稼働確認用日本語名標辞書のデータセット名.
- ⑥ 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールライブラリのデータセット名.
- ⑦ 日本語名標辞書データ変換プログラムの実行用ジョブ制御文のデータセット名.

### 10.3 実行用ジョブ制御文の修正

このソフトウェアを稼働させるためのジョブ制御文を修正する。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

#### 10.3.1 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式）出力用ジョブ制御文の修正

ファイル比較チェックリスト（コピー句形式）出力用ジョブ制御文を図10.6に示す。提供JCLファイルのメンバは'FCHECK1'である。

//USER01A	JOB XXXX, CLASS=A, MSGCLASS=R		
//JOBLIB	DD DSN=USER01.FILECOMP.LOAD, DISP=SHR	_____	①
//	DD DSN=SYS1.C85L20.COBLIB, DISP=SHR	_____	②
//	DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB, DISP=SHR	_____	
//	DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB, DISP=SHR	_____	
//JOB	DD DSN=N8UCAT, DISP=SHR	_____	③
//FILECOMP	EXEC PGM=JSMVF000, REGION=2048K,		
//	PARM='FCHECK, HANYO, HYP1'		
//JSMVFIN	DD DSN=USER01.OLD.FILE, DISP=SHR	_____	④
//JSMVFIN1	DD DSN=USER01.NEW.FILE, DISP=SHR	_____	⑤
//SYSLIB	DD DSN=USER01.TEST.COPYLIB, DISP=SHR	_____	⑥
//JIMLIB	DD DSN=USER01.FILECOMP.NDICT, DISP=SHR	_____	⑦
//JSMVF001	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (30, 10))		
//JSMVF002	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (5, 5))		
//JSMVF003	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//JSMVF004	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK01	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK02	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK03	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK04	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SYSUT2	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SYSDCT	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10, 10)),		
//	DCB=(LRECL=508, BLKSIZE=10160, RECFM=VB)		
//SYSOUT	DD SYSOUT=*		
//JSMVFLST	DD SYSOUT=*, FCB=STD3	_____	⑧
//SYSOUT	DD DUMMY		
//SYSIN	DD *		
@OPTIONS			
@COMPARE			
-MOPT	M=PS;PS		
-COPY	NAME=MEMO1		
-RECORD	ALL		
-ITEM	ALL		
/*			
//			

図10.6 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式）出力用ジョブ制御文

- ① VF-FILECOMPのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85コンパイラ, COBOL 85ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元の旧データファイルを指定する。
- ⑤ 入力元の新データファイルを指定する。
- ⑥ 入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑦ 実行時オプションでHANYO指定時に、日本語名標辞書を指定する。
- ⑧ 用紙制御イメージ識別子は、8LPIのものを指定する。



### 10.3.2 ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力用ジョブ制御文の修正

ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力用ジョブ制御文を図10.7に示す。提供JCLファイルのメンバは'FCHECK2'である。

//USER01A	JOB XXXXX, CLASS=A, MSGCLASS=R		
//JOBLIB	DD DSN=USER01. FILECOMP. LOAD, DISP=SHR	_____	①
//	DD DSN=SYS1. C85L20. COBLIB, DISP=SHR	_____	②
//	DD DSN=SYS1. C85L20. LINKLIB, DISP=SHR	_____	
//	DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR	_____	
//JOB CAT	DD DSN=N8UCAT, DISP=SHR	_____	③
//FILECOMP	EXEC PGM=JSMVF000, REGION=2048K,		
//	PARM='FCHECK'		
//JSMVFIN	DD DSN=USER01. OLD. FILE, DISP=SHR	_____	④
//JSMVFIN1	DD DSN=USER01. NEW. FILE, DISP=SHR	_____	⑤
//JSMVF001	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (30, 10))		
//JSMVF002	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (5, 5))		
//JSMVF003	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//JSMVF004	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK01	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK02	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK03	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SORTWK04	DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))		
//SYS PRINT	DD SYSOUT=*		
//JSMVFLST	DD SYSOUT=*, FCB=STD3	_____	⑥
//SYS OUT	DD DUMMY		
//SYS IN	DD *		
@OPTIONS			
@COMPARE			
-MOPT	M=PS;PS		
-RECORD	ALL		
-ITEM	ALL		
/*			
//			

図10.7 ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力用ジョブ制御文

- ① VF-FILECOMPのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85コンパイラ，COBOL 85ライブラリ，ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし，認定ライブラリとなっているものは，指定してはならない。  
注）ADJUSTロードモジュールライブラリには，動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元の旧データファイルを指定する。
- ⑤ 入力元の新データファイルを指定する。
- ⑥ 用紙制御イメージ識別子は，8LPIのものを指定する。

### 10.3.3 抽出レコードファイル出力用ジョブ制御文の修正

抽出レコードファイル出力用ジョブ制御文を図10.8に示す。提供JCLファイルのメンバは 'SELECT' である。

```

//USER01A JOB XXXXX, CLASS=A, MSGCLASS=R
//JOBLIB DD DSN=USER01. FILECOMP. LOAD, DISP=SHR ①
// DD DSN=SYS1. C85L20. COBLIB, DISP=SHR ②
// DD DSN=SYS1. C85L20. LINKLIB, DISP=SHR
// DD DSN=SYS1. ADJUST. LINKLIB, DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=N8UCAT, DISP=SHR ③
//FILECOMP EXEC PGM=JSMVF000, REGION=2048K,
// PARM='SELECT'
//JSMVFIN DD DSN=USER01. OLD. FILE, DISP=SHR ④
//SYSLIB DD DSN=USER01. TEST. COPYLIB, DISP=SHR ⑤
//JSMVF001 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (30, 10))
//JSMVF002 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (5, 5))
//JSMVF003 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//JSMVF004 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSUT2 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10))
//SYSDCT DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 10, 10)),
// DCB=(LRECL=508, BLKSIZE=10160, RECFM=VB)
//JSMVFOT DD DSN=USER01. SELECT. FILE, UNIT=SYSDA, VOL=SER=DASD01, ⑥
// DISP=(NEW, CATLG), SPACE=(TRK, (1, 1))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//JSMVFLST DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
@OPTIONS
@COMPARE
-MOPT M=PS
-RECORD COUNT=(A)
-DATA A=(3/5)
/*
//

```

図10.8 抽出レコードファイル出力用ジョブ制御文

- ① VF-FILECOMPのロードモジュールライブラリを指定する。
- ② COBOL 85 コンパイラ, COBOL 85 ライブラリ, ADJUSTなどの必要プログラムのライブラリを指定する。ただし、認定ライブラリとなっているものは、指定してはならない。  
注) ADJUSTロードモジュールライブラリには、動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ ユーザカタログを指定する。
- ④ 入力元のデータファイルを指定する。
- ⑤ コピー句を使用する場合は、入力元のコピーライブラリを指定する。
- ⑥ 抽出レコードファイルを指定する。

## 11. 稼働確認

このソフトウェアの稼働確認の方法を説明する。

### 11.1 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式）出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'FCHECK1'を修正し、実行する。実行後このジョブ制御文で出力したドキュメントが図11.1と同じであることを確認する。

当ジョブは、不一致レコードが検出され、最大重大度コード=04で完了する。

#### ・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“10.3 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。

- － PARMパラメタに実行時オプション'FCHECK, HANYO, HYP1'を指定する。
- － 入力元の旧データファイルに提供旧データファイルのデータセット名を指定する。
- － 入力元の新データファイルに提供新データファイルのデータセット名を指定する。
- － 入力元のコピーライブラリに提供コピーライブラリのデータセット名を指定する。
- － JIMLIB DD文に提供日本語名標辞書のデータセット名を指定する。
- － SYSIN制御文に@OPTIONS制御文と@COMPARE制御文を指定し、-MOPT（メンバ選択）補助制御文に'M=PS;PS'を指定する。さらに、-COPY（コピー句選択）補助制御文に'NAME=MEM01'を指定する。さらに、-RECORD（レコード選択）補助制御文と-ITEM（比較範囲指示）補助制御文に'ALL'を指定する。

) )

SIMPLIA/VF-FILECOMP V20L20 注) →日付\*\*\*\* 時刻 \*\*\*\*

\*\* ファイル比較チェックリスト \*\*

OLD : USER01.OLD.FILE

00000001	レコードNO 00000001	フォーマットNO 01				locate 00001:00006
	従業員番号	8 1 3 0 0 1	?			
00000002	レコードNO 00000004	フォーマットNO 01				locate 00008:00027 ⇒続く
	従業員氏名	渡 辺 幸 一				
		C5CFCAD5B9ACB0EC294040404040	??			
00000003	レコードNO 00000005	フォーマットNO 01				locate 00008:00027
	従業員氏名	中 野 修 一				
		C3E6CCEEEDA4B0EC294040404040	??			
00000004	レコードNO 00000006	フォーマットNO 01				locate 00008:00027
	従業員氏名	平 忠 彦				
		CABFC3E9C9A729404040404040	??			
00000005	レコードNO 00000010	フォーマットNO 01				locate 00001:00006
	従業員番号	8 2 3 0 0 0	?			
合 計	読込件数	比較件数	不一致件数	一致件数		
OLD	: 10	10	5	5		
NEW	: 10	10	5	5		

) )

) )

PAGE 1

NEW : USER01.NEW.FILE

	レコードNO 00000001	フォーマットNO 01				locate 00001:00006
	従業員番号	8 5 3 0 0 1	?			
続き⇒	レコードNO 00000004	フォーマットNO 01				locate 00008:00027
	従業員氏名	渡 辺 幸 二				
		C5CFCAD5B9ACC6F3294040404040	??			
	レコードNO 00000005	フォーマットNO 01				locate 00008:00027
	従業員氏名	中 山 修 一				
		C3E6BBB3BDA4B0EC294040404040	??			
	レコードNO 00000006	フォーマットNO 01				locate 00008:00027
	従業員氏名	平 忠 雄				
		CABFC3E9CDBA29404040404040	??			
	レコードNO 00000010	フォーマットNO 01				locate 00001:00006
	従業員番号	8 2 7 0 0 0	?			

) )

(注) 日付・時刻には、ファイル比較チェックリストを出力した日付・時刻が出力される。

図11.1 ファイル比較チェックリスト（コピー句形式）出力機能のドキュメント

## 11.2 ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ'FCHECK2'を修正し、実行する。実行後このジョブ制御文で出力したドキュメントが図11.2と同じであることを確認する。

当ジョブは、不一致レコードが検出され、最大重大度コード=04で完了する。

### ・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“10.3 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。

- － PARMパラメタに実行時オプション'FCHECK'を指定する。
- － 入力元の旧データファイルに提供旧データファイルのデータセット名を指定する。
- － 入力元の新データファイルに提供新データファイルのデータセット名を指定する。
- － SYSIN制御文に@OPTIONS制御文と@COMPARE制御文を指定し、-MOPT（メンバ選択）補助制御文に'M=PS;PS'を指定する。さらに、-RECORD（レコード選択）補助制御文と-ITEM（比較範囲指示）補助制御文に'ALL'を指定する。

\*\* ファイル比較チェックリスト \*\*

OLD : USER01. OLD. FILE

```

00000001 レコードNO 00000001 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
813001 鈴木太郎 0205 海外営業部 営業課
F8F1F3F0F0F128CEEBCDAC2COCFBA29 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
?
00000002 レコードNO 00000004 フォーマットNO 01 locate 00001:00050 ⇒続く
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
813004 渡辺幸一 0205 海外営業部 営業課
F8F1F3F0F0F428C5FCAD5B9ACB0EC29 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
??
00000003 レコードNO 00000005 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
813005 中野修一 0205 海外営業部 営業課
F8F1F3F0F0F528C3E6CCEEBDA4B0EC29 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
??
00000004 レコードNO 00000006 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
823006 平忠彦 0205 海外営業部 営業課
F8F2F3F0F0F628CABFC3E9C9A7294040 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
??
00000005 レコードNO 00000010 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
823000 宮崎伸 0205 海外営業部 営業課
F8F2F3F0F0F028B5DCBAEABFAD294040 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
?

```

合計	読込件数	比較件数	不一致件数	一致件数
OLD :	10	10	5	5
NEW :	10	10	5	5

NEW : USER01. NEW. FILE

```

レコードNO 00000001 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
853001 鈴木太郎 0205 海外営業部 営業課
F8F5F3F0F0F128CEEBCDAC2COCFBA29 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
?
続き⇒
レコードNO 00000004 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
813004 渡辺幸二 0205 海外営業部 営業課
F8F1F3F0F0F428C5FCAD5B9ACC6F329 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
??
レコードNO 00000005 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
813005 中山修一 0205 海外営業部 営業課
F8F1F3F0F0F528C3E6BBB3BDA4B0EC29 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
??
レコードNO 00000006 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
823006 平忠雄 0205 海外営業部 営業課
F8F2F3F0F0F628CABFC3E9CDBA294040 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
??
レコードNO 00000010 フォーマットNO 01 locate 00001:00050
-----*-----1-----*-)(-----3-----*-----4-----*-----5
827000 宮崎伸 0205 海外営業部 営業課
F8F2F7F0F0F028B5DCBAEABFAD294040 4040F0F2F0F528B3A4B3B0B1C4B6C8C9F4B1C4B6C8B2DD29
?

```

(注) 日付・時刻には、ファイル比較チェックリストを出力した日付・時刻が出力される。

図11.2 ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力機能のドキュメント

### 11.3 抽出レコードファイル出力機能の稼働確認

提供JCLファイルのメンバ' SELECT 'を修正し、実行する。実行後このジョブ制御文で出力したドキュメントが図11.3と同じであること。抽出レコードファイルの編成、レコード形式、レコード長、ブロック長が、入力元データファイルと同じであることを確認する。

#### ・ジョブ制御文の修正

稼働確認のためのジョブ制御文の修正箇所を説明する。説明以外の箇所は“10.3 実行用ジョブ制御文の修正”で修正した内容と同じである。

- － PARMパラメタに実行時オプション' SELECT 'を指定する。
- － 入力元のデータファイルに提供旧データファイルのデータセット名を指定する。
- － SYSIN制御文に@OPTIONS制御文と@COMPARE制御文を指定し、-MOPT（メンバ選択）補助制御文に' M=PS 'を指定する。さらに、-RECORD（レコード選択）補助制御文に' COUNT=（A） 'を指定する。さらに、-DATA（実値宣言）補助制御文に' A=（3/5） 'を指定する。

SIMPLIA/VF-FILECOMP V20L20 注) →日付\*\*\*\* 時刻 \*\*\*\* PAGE 1

\*\* トータルリスト \*\*

読込件数 10 書込件数 5

(注) 日付・時刻には、トータルリストを出力した日付・時刻が出力される。

図11.3 抽出レコードファイル出力機能のドキュメント



## 12. 日本語名標辞書データ変換プログラム

このプログラムはCOBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者のために提供するものであり、順アクセス形式からランダムアクセス形式（ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティで作成する日本語項目変換辞書の形式）に日本語名標辞書の作成データを変換するものである。

提供媒体の格納番号7でロードモジュールを、格納番号8で実行用ジョブ制御文を提供している。

COBOL 85 DFの順アクセス形式の日本語名標辞書を使用している利用者は、このプログラムで変換した作成データから、ADJUSTの日本語ファイル編集ユーティリティでランダムアクセス形式の日本語名標辞書を再作成して、本ソフトウェアで使用されたい。

### 12.1 フォーマットの変換方法

本プログラムを使用した場合に、日本語名標辞書の作成データがどのように変換されるかを、図12.1に示し、各フィールドについて説明する。なお、本ソフトウェアで使用可能な日本語名標辞書の形式の詳細については、適用マニュアルを参照されたい。 ◆【1】付録D

#### 【変換前】

レコード長：120バイト

キー部	読み部	日本語データ部
30バイト	30バイト	60バイト

#### 【変換後】

レコード長：124バイト

キー部		レコード数	有効文字数	日本語データ部	読み部
項目キー	順序番号				
28バイト	2バイト	2バイト	2バイト	60バイト	30バイト

図12.1 フォーマットの変換方法

#### 1) キー部

##### ー 項目キー

変換前の30バイトのキーの後ろ2バイトを切り捨てて、28バイトの項目キーに設定される。

##### ー 順序番号

順序番号に'01'が設定される。

#### 2) レコード数

レコード数に'01'が設定される。

#### 3) 有効文字数

有効文字数に'30'が設定される。

#### 4) 日本語データ部

変換前の日本語データ部の内容がそのまま設定される。

#### 5) 読み部

変換前の読み部の内容がそのまま設定される。

## 12.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

本プログラムを使用して、日本語名標辞書を再作成する場合のジョブフローを図12.2に示す。

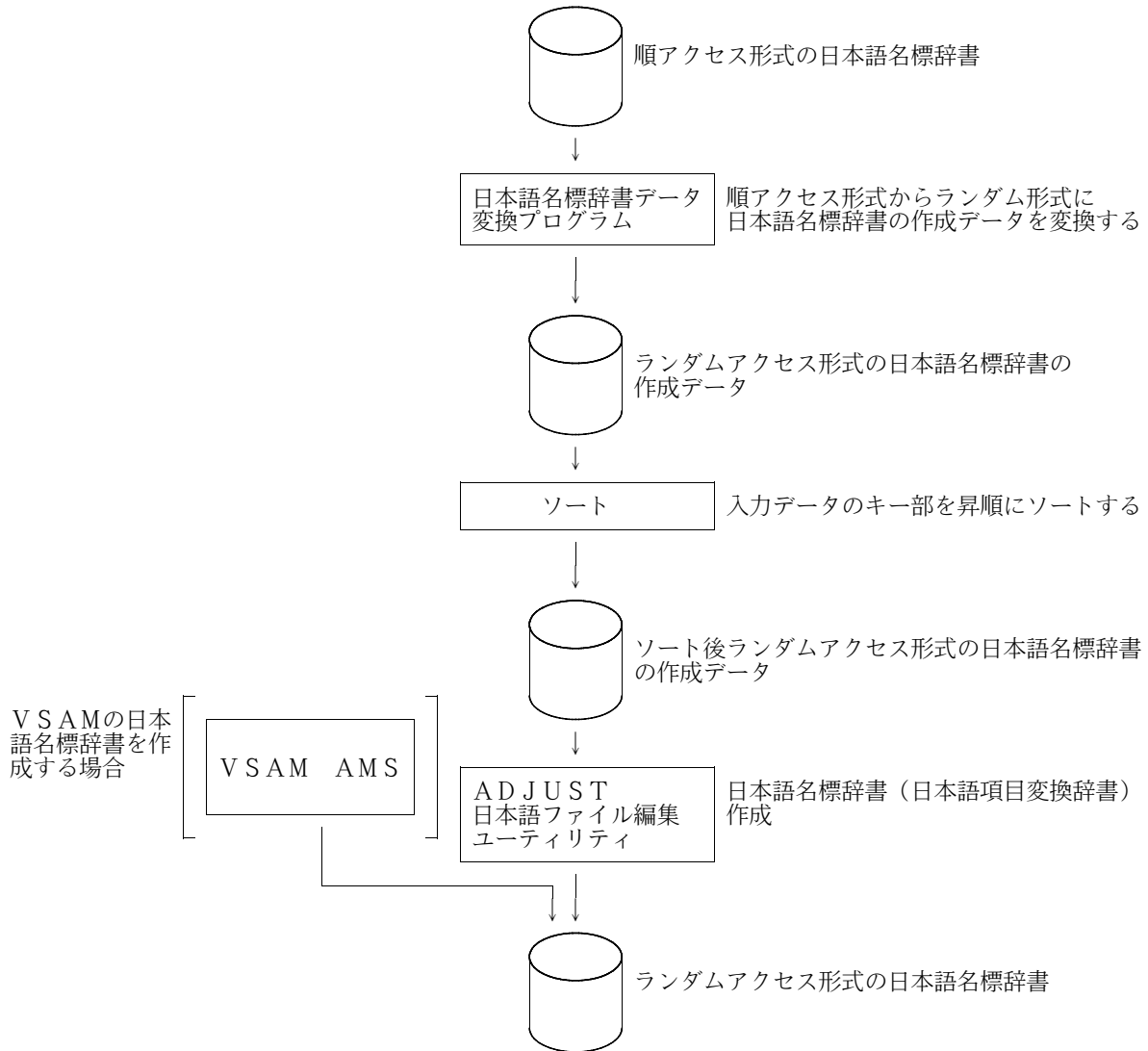


図12.2 日本語名標辞書再作成のジョブフロー

### 12.3 実行用ジョブ制御文

日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文を図12.3に示し、説明する。

下線部は変更箇所であり、図中の項番は説明中の項番に対応する。なお、下線が引かれていない部分でも、システムに合わせて装置名などを変更する。

日本語名標辞書をVSAMで作成しない場合は、KQCAMS1のステップは実行しなくてよい。

```
//USER01A JOB CLASS=A,MSGCLASS=R
//*****
//*          日本語名標辞書          再創成          *
//*****
//JOBLIB DD DSN=USER01.FILECOMP.UTYLOAD,DISP=SHR          ①
//        DD DSN=SYS1.C85L20.LINKLIB,DISP=SHR          ②
//        DD DSN=SYS1.ADJUST.LINKLIB,DISP=SHR          ③
//JOBCAT DD DSN=N8UCAT,DISP=SHR          ③
//*****
//*          DEFINE CLUSTER          *
//*****
//KQCAMS1 EXEC PGM=KQCAMS,REGION=960K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEF CLUSTER -
(NAME USER01.RAN.NDICT) - _____ ④
INDEXED -
UNIQUE -
KEYS(30 0) -
IMBED -
VOLUMES(DASD01) - _____ ⑤
REPLICATE -
TRACKS(5) - _____ ⑥
RECORDSIZE(124 124) -
DATA -
(NAME USER01.RAN.NDICT.DATA) - _____ ⑦
INDEX -
(NAME USER01.RAN.NDICT.IDX) - _____ ⑧
//*
//*****
//** 日本語名標辞書 入力データ変換 J C L *
//** 順アクセス→ランダムアクセス *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSMVDICT
//JSMVJUN DD DSN=USER01.JUN.NDATA,DISP=SHR          ⑨
//JSMVRAN DD DSN=&&RAN,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//        DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240),
//        SPACE=(TRK,(50,10))          ⑩
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//*
//*****
//**          ソート          *
//*****
//SORT1 EXEC PGM=SORT,REGION=1024K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&RAN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&FILCMP,DISP=(,PASS),UNIT=SYSDA,
//        SPACE=(TRK,(50,10)),          ⑩
//        DCB=(RECFM=FB,LRECL=124,BLKSIZE=1240)
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,20))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,30,CH,A)
//*
```

図12.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例（続く）

```

//*****
//**   日本語ファイル編集ユーティリティ   *
//*****
//JAFE1 EXEC PGM=JRQJAFE, REGION=1024K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSLIST DD DUMMY
//SYSIN DD *
- ADD OUT (JAFLIB), FIELDS=((30, A), (2, A, R), (2, A, R), (30, K), (30, A))
- FORMAT SAME
- CHGIN IN (CHGLIB)
- END
//JAFLIB DD DSN=USER01.RAN.NDICT, DISP=SHR _____ ⑩
//CHGLIB DD DSN=&&FILCMP, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//*

```

図12.3 日本語名標辞書データ変換プログラムのジョブ制御文例（続き）

- ① 日本語名標辞書データ変換プログラムのロードモジュールが格納されているデータセット名を指定する。
- ② COBOL 8 5 および ADJUST のライブラリを指定する。認定ライブラリとなっている場合は、指定してはならない。注) ADJUST は動的結合用のトランジェントライブラリを指定すること。
- ③ 必要に応じてユーザカタログを指定する。
- ④ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のクラスタ名を指定する。
- ⑤ VSAM の日本語名標辞書を作成するボリューム通し番号を指定する。
- ⑥ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の VSAM データセット名の割当て容量を指定する。
- ⑦ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータ部名を指定する。
- ⑧ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のインデックス部名を指定する。
- ⑨ 順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データセット名を指定する。
- ⑩ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の作成データセット名の割当て容量を指定する。
- ⑪ ランダムアクセス形式の日本語名標辞書のデータセット名を指定する。

VSAM の場合は、④ のクラスタ名を指定し、順編成のランダムアクセス形式の日本語名標辞書を作成する場合は、レコードが 1 2 4 バイトの固定長ブロック化形式のデータセット名を指定する。

#### 12.4 注意事項

本プログラムの使用上の注意事項を説明する。

- － キー部のデータに重複しているものがあるなど入力元の順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データに不備があっても、本プログラムはチェックおよびエラー処理を行わないので、そのまま変換される。
- － ランダムアクセス形式の日本語名標辞書の項目キーは 2 8 バイト以内でなければならないので、順アクセス形式の日本語名標辞書の作成データのキー部に 2 9 バイト以上のデータがある場合、2 9 バイト以降が切り捨てて変換される。

13. 適用マニュアルの正誤表

マニュアル名称	マニュアルコード
OS IV SIMPLIA/VF-FILECOMP 解説書	70AR-9910-2

表13.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
1	19	1.4.2 必要データ セット一覧 表1.2 データセッ ト一覧	作業用ワークデータセット 3~4 の属性を変更 ◆参照 → 13.1	
2	21	1.4.4 D A S D 容量見積り 表1.4 D A S D容量見 積り	作業用ワークデータセット 3~4 の属性を変更 ◆参照 → 13.2	
3	22	1.4.5 制限事項・ 注意事項	(記述追加)	c)入力ファイルに関して 1)同一キーを意識した比較に て指定できる入力ファイル のレコード長は、最大4000 バイト (RDW含む)である。 2)入力ファイルにリストファ イルを指定した場合、コピ ー句形式で複数のフォーマ ットを指定することはでき ない。また、リストファイ ルでコピー句を指定する場 合は、制御文字部分を含ま ないコピー句を指定する。
4	55  128	3.2.4.4 -C O P Y (コピー句選択 )補助制御文 [記述形式]  3.4.4.4 -C O P Y (コピー句選択 )補助制御文 [記述形式]	-COPY補助制御文の記述形式を変更  ◆参照 → 13.3	
5	56  128	3.2.4.4 -C O P Y (コピー句選択 )補助制御文 <フォーマットの 指定>  3.4.4.4 -C O P Y (コピー句選択 )補助制御文 <フォーマットの 指定>	FORMオペランドの説明を変更  ◆参照 → 13.4	
6	56  129	3.2.4.4 -C O P Y (コピー句選択 )補助制御文 <REDEFINES 句を 含むコピー句のフ ォーマット指定>  3.4.4.4 -C O P Y (コピー句選択 )補助制御文 <REDEFINES 句を 含むコピー句のフ ォーマット指定>	REDEFオペランドの説明を変更  ◆参照 → 13.5	

表13.1 適用マニュアルの正誤表（続く）

項番	ページ	行・位置	旧記述（誤）	新記述（正）
7	67	3.2.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文	なお、当補助制御文は複数個記述することができる。ただし、省略することはできない。	当補助制御文は省略することはできない。なお、複数個記述できるのは、マルチフォーマット指定時のCONDオペランドおよびALLオペランドである。
	131	3.4.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文		
8	106	3.3.4.4 - RECORD（レコード選択）補助制御文	なお、当補助制御文は複数個記述することができる。ただし、省略することはできない。	当補助制御文は省略することはできない。なお、複数個記述できるのは、CONDオペランドを指定した場合のみである。
9	70	3.2.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文<レコード件数による比較の指定>	2) 仮名-5=（旧開始レコード件数：新開始レコード件数／比較レコード件数） ----- 旧開始レコード件数には、旧データファイルの比較を開始するレコードを新開始レコード件数には、新データファイルの比較を開始するレコードを先頭レコードからの相対レコード件数で指定する。値は 1～99999 である。 比較レコード件数には、比較するレコード件数を指定する。値は 1～99999 である。	2) 仮名-5=（旧開始レコード件数：新開始レコード件数／比較レコード件数） ----- 旧開始レコード件数には旧データファイルの比較を開始するレコードを、新開始レコード件数には新データファイルの比較を開始するレコードを、先頭レコードからの相対レコード件数で指定する。値は 1～99999999 である。 比較レコード件数には、比較するレコード件数を指定する。値は 1～99999999 である。
	107	3.3.4.4 - RECORD（レコード選択）補助制御文<レコード件数による比較の指定>		
10	72	3.2.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文<同一キーによる比較の指定>	2) 仮名-6=（開始キー位置／キー長） ----- 開始キー位置とキー長の値は、開始キー位置+キー長-1 ≤ 4000にする。	2) 仮名-6=（開始キー位置／キー長） ----- 開始キー位置とキー長の値は、開始キー位置+キー長-1 ≤ 4000とする。ただし、新/旧データファイルが可変長の場合は、≤3996とする。 キー部は昇順であること。
	107	3.3.4.4 - RECORD（レコード選択）補助制御文<同一キーによる比較の指定>		
11	74	3.2.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文<ページによる比較の指定>	2) 仮名-5=（旧開始ページ：新開始ページ／比較ページ数） ----- 旧開始ページには、旧データファイルの比較を開始するページを新開始ページには、新データファイルの比較を開始するページを先頭ページからの相対ページ数で指定する。値は 1～99999 である。 比較ページ数には、比較するページ数を指定する。値は 1～99999 である。	2) 仮名-5=（旧開始ページ：新開始ページ／比較ページ数） ----- 旧開始ページには旧データファイルの比較を開始するページを、新開始ページには新データファイルの比較を開始するページを、先頭ページからの相対ページ数で指定する。値は 1～99999999 である。 比較ページ数には、比較するページ数を指定する。値は 1～99999999 である。
	108	3.3.4.4 - RECORD（レコード選択）補助制御文<ページによる比較の指定>		
12	77	3.2.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文<開始/終了条件による比較の指定>	2) 仮名-7= 'データ項目名' , 値 ----- また、開始データ項目名、終了データ項目名は、-COPY 補助制御文で定義されたフォーマット中に存在しなければならない。	2) 仮名-7= 'データ項目名' , 値 ----- また、開始データ項目名、終了データ項目名は、-COPY 補助制御文で定義されたフォーマット中に存在しなければならない。ただし、マルチフォーマット指定時には当オペランドは指定できない。
	135	3.4.4.5 - RECORD（レコード選択）補助制御文<開始/終了条件による比較の指定>		

表13.1 適用マニュアルの正誤表(続き)

項番	ページ	行・位置	旧記述(誤)	新記述(正)
13	84  141	3.2.4.5 -RECORD (レコード選択) 補助制御文<条件外レコードによる比較の指定>  3.4.4.5 -RECORD (レコード選択) 補助制御文<条件外レコードによる比較の指定>	2) 仮名-7= 'データ項目名', 値 ..... また, データ項目名は, -COPY補助制御文で定義されたフォーマット中に存在しなければならない.	2) 仮名-7= 'データ項目名', 値 ..... また, データ項目名は, -COPY補助制御文で定義されたフォーマット中に存在しなければならない. ただし, マルチフォーマット指定時には当オペランドは指定できない.
14	123	3.4.4 SYSIN 制御文 表3.7 抽出レコードファイル出力機能に必要なSYSIN 制御文	実値宣言 (-DATA 補助制御文) の記述形式を変更 ◆参照 → 13.6	
15	133	3.4.4.5 -RECORD (レコード選択) 補助制御文<レコード件数による抽出の指定>	2) 仮名-5= (開始レコード件数/抽出レコード数) ..... 開始レコード件数には, データファイルの抽出を開始するレコードを先頭レコードからの相対レコード件数で指定する. 値は 1~99999 である. 抽出レコード件数には, 抽出するレコードの件数を指定する. 値は 1~99999 である.	2) 仮名-5= (開始レコード件数/抽出レコード数) ..... 開始レコード件数にはデータファイルの抽出を開始するレコードを, 先頭レコードからの相対レコード件数で指定する. 値は 1~99999999である. 抽出レコード件数には, 抽出するレコードの件数を指定する. 値は 1~99999999である.
16	134	3.4.4.5 -RECORD (レコード選択) 補助制御文<ページによる抽出の指定>	2) 仮名-5= (開始ページ/抽出ページ数) ..... 開始ページには, データファイルの抽出を開始するページを先頭ページからの相対レコード数で指定する. 値は 1~99999 である. 抽出ページ数には, 抽出するページの数指定する. 値は 1~99999 である.	2) 仮名-5= (開始ページ/抽出ページ数) ..... 開始ページにはデータファイルの抽出を開始するページを, 先頭ページからの相対レコード数で指定する. 値は 1~99999999である. 抽出ページ数には, 抽出するページ数を指定する. 値は 1~99999999である.
17	245	5.2.2 診断メッセージ	診断メッセージ: JSMVF433-Wを追加 ◆参照 → 13.7	
18	267	付録D 日本語名 標辞書	(表記の変更)	(変更内容の説明)  変更前: ユティリティ 変更後: ユーティリティ
19	274		付録E VF-FILECOMPのプロフィール取得方法を追加 ◆参照 → 13.8	

13.1 表1.2 データセット一覧

【旧記述】

表1.2 データセット一覧 (続き)

データ セット名	DD名	区 分	必 須	選 択	編成 (注1)	ロード 形式	ロード長 (バイト)	ブロック長 (バイト) (注2)	用 途
作業用 ワーク データ セット 3~4	JSMVF003 ~004	作	-	○	PS	F/FB	4096	4096*n	レコード選択 (-RECORD)補助制 御文の KEYオペランドを指定し た時に必要となるデータセット である。

【新記述】

表1.2 データセット一覧 (続き)

データ セット名	DD名	区 分	必 須	選 択	編成 (注1)	ロード 形式	ロード長 (バイト)	ブロック長 (バイト) (注2)	用 途
作業用 データ セット 3~4	JSMVF003 ~004	作	-	○	PS	V	4027	ロード長+4	レコード選択 (-RECORD)補助制 御文の KEYオペランドを指定し た時に必要となるデータセット である。



13.2 表1.4 DASD容量見積り

【旧記述】

表1.4 DASD容量見積り（続き）

データセット名	DD名	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数 (注)
作業用ワーク データセット 3～4	JSMVF003 ～ 004	PS	F/FB	4096	4096*n	$\left[ \begin{array}{c} \text{旧データファイルのレコード数} \\ + \\ \text{新データファイルのレコード数} \\ \hline \left[ \frac{47476}{\text{ブロック長} + 512} \right] * n \end{array} \right]$

注) - F6425の場合で説明する。 [ ] は小数点以下切上げ

nは、ブロック化定数

【新記述】

表1.4 DASD容量見積り（続き）

データセット名	DD名	編成	レコード形式	レコード長 (バイト)	ブロック長 (バイト)	トラック数 (注)
作業用 データセット 3～4	JSMVF003 ～ 004	PS	V	4027	レコード長 +4	$\left[ \begin{array}{c} (\text{旧データファイルのレコード数} \\ + \\ \text{新データファイルのレコード数}) \\ \hline \left[ \frac{47476}{\text{ブロック長} + 512} \right] * m \end{array} \right]$

注) - F6425の場合で説明する。 [ ] は小数点以下切上げ

nは、ブロック化定数

mは、以下の計算式で算出する。

$$m = \frac{4027(\text{レコード長})}{\text{下記対応表の作業用データセットレコード長}}$$

[作業用データセットレコード対応表]

新/旧データファイル 最大レコード長 (バイト)	作業用データセット レコード長 (バイト)
1～ 100	127
101～ 500	527
501～1000	1027
1001～2000	2027
2001～3000	3027
3001～4000	4027

※レコード長はRDWを含む。



1 3 . 3 [記述形式]

【旧記述】

[記述形式]

オペレーション	オ ペ ラ ン ド
-COPY	NAME=コピー句名 [, FORM= (仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...) ] [, REDEF = (仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...) ] [ , { REP = (仮名-3 [: 仮名-3] ...) } ] [ , { JOIN= (仮名-4 [: 仮名-4] ...) } ]

【新記述】

[記述形式]

オペレーション	オ ペ ラ ン ド
-COPY	NAME=コピー句名 [ , FORM= { (仮名-1) (仮名-1 (仮名-2) : 仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...) } ] [ , REDEF = { (仮名-1) (仮名-1 (仮名-2) : 仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...) } ] [ , { REP = (仮名-3 [: 仮名-3] ...) } ] [ , { JOIN= (仮名-4 [: 仮名-4] ...) } ]

13.4 <フォーマットの指定>

【旧記述】

---

FORM= (仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...)

---

仮名-1= 'フォーマット名'

仮名-2= 'データ項目名' , 値

---

<フォーマットの指定>

1) FORM= (仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...)

仮名-1~仮名-2は, 1文字の英字 (A~Z) で指定する.



FORMオペランドの定義順序と -RECORD補助制御文, -ITEM 補助制御文の定義順序は一致しなければならない.

【新記述】

---

FORM= { (仮名-1)  
(仮名-1 (仮名-2) : 仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ... ) }

---

仮名-1= 'フォーマット名'

仮名-2= 'データ項目名' , 値

---

<フォーマットの指定>

1) FORM= { (仮名-1)  
(仮名-1 (仮名-2) : 仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ... ) }

仮名-1~仮名-2は, 1文字の英字 (A~Z) で指定する. 指定するフォーマットが一つの場合は上の形式で指定し, 複数の場合は下の形式で指定する.



FORMオペランドの定義順序と -RECORD補助制御文, -ITEM 補助制御文の定義順序は一致していなければならない. -RECORD補助制御文と -ITEM補助制御文を対にして, FORMオペランドの数分定義しなければならない.

1 3 . 5 <REDEFINES 句を含むコピー句のフォーマット指定>

【旧記述】

---

REDEF = (仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...)

---

仮名-1 = '再定義項目名'

仮名-2 = 'データ項目名' , 値

---

<REDEFINES 句を含むコピー句のフォーマット指定>

1) REDEF = (仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ...)

仮名-1~仮名-2は, 1文字の英字(A~Z)で指定する.

2) 仮名-1 = '再定義項目名'

FORMオペランドで指定されたフォーマット中にREDEFINES 句があり, 再定義項目によるフォーマット決定を行う場合に再定義項目名を指定する.

再定義項目名は, 1~30文字の英数字または日本語で指定する.



【新記述】

---

REDEF = { (仮名-1)  
(仮名-1 (仮名-2) : 仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ... ) }

---

仮名-1 = '再定義項目名'

仮名-2 = 'データ項目名' , 値

---

<REDEFINES 句を含むコピー句のフォーマット指定>

1) REDEF = { (仮名-1)  
(仮名-1 (仮名-2) : 仮名-1 (仮名-2) [: 仮名-1 (仮名-2)] ... ) }

仮名-1~仮名-2は, 1文字の英字(A~Z)で指定する. 指定するフォーマットが一つの場合は上の形式で指定し, 複数の場合は下の形式で指定する. ただし, FORMオペランドが複数指定されている場合は, 当オペランドの複数指定はできない.

2) 仮名-1 = '再定義項目名'

再定義項目によるフォーマット決定を行う場合に再定義項目名を指定する.

再定義項目名は, 1~30文字の英数字または日本語で指定する.

また, 再定義項目名は, FORMオペランドで指定したフォーマット中に存在しなければならない.



1 3 . 6 表3.7 抽出レコードファイル出力機能に必要なSYSIN 制御文

【旧記述】

表3.7 抽出レコードファイル出力機能に必要なSYSIN 制御文（続き）

SYSIN制御文		PARMパラメタの ドキュメントキーワード	抽出レコード ファイル出力
			SELECT
6	実値宣言	仮名-1= 'データ項目名'	△ 3.4.4.6
		$\text{仮名-5} = \left\{ \begin{array}{l} \frac{(\text{旧開始レコード件数} : \text{新開始レコード件数} /}{\text{比較レコード件数}} \\ (\text{旧開始ページ} : \text{新開始ページ} / \text{比較ページ 数}) \end{array} \right\}$	

【新記述】

表3.7 抽出レコードファイル出力機能に必要なSYSIN 制御文（続き）

SYSIN制御文		PARMパラメタの ドキュメントキーワード	抽出レコード ファイル出力
			SELECT
6	実値宣言	仮名-1= 'データ項目名'	△ 3.4.4.6
		$\text{仮名-5} = \left\{ \begin{array}{l} \frac{(\text{開始レコード件数} / \text{抽出レコード件数})}{(\text{開始ページ 数} / \text{抽出ページ 数})} \end{array} \right\}$	

### 1 3 . 7 5.2.2 診断メッセージ

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】

JSMVF433-W

不一致レコードを検出しました。@COMPARE番号=@1

[メッセージの意味]

@1番目の比較結果に不一致レコードを検出した。

[パラメタの意味]

@1 : @COMPARE制御文番号

複数メンバ（ファイル）指定の場合，@COMPARE制御文番号，メンバ名またはMT（旧ファイル順序番号：新ファイル順序番号）

[システムの処理]

処理を続行する。

[利用者の処置]

必要ならばファイル比較チェックリストで不一致箇所を確認する。

### 13.8 付録E VF-FILECOMPのプロフィール取得方法

#### 【旧記述】

(記述追加)

#### 【新記述】



## 付録E VF-FILECOMP のプロフィール取得方法

VF-FILECOMP のバージョンレベル等のプロフィールを、コマンドプロシジャを起動して参照したり、ユーザーチンから呼び出して取得したりすることができる。

- コマンドプロシジャでのプロフィール通知
- ユーザーチンへのプロフィール通知

### E.1 コマンドプロシジャでのプロフィール通知

プログラム名JSMFPRFOをコマンドプロシジャにより起動してプロフィールを参照する。  
起動時にV/L，修正No.，修正日付，修正時刻，実行ユーザID，実行日付および実行時間を表示する。

[起動用コマンドプロシジャ]

```
ALLOC DD(SYSOUT) DS(*) REU
LIB   'COBOL85ライブラリ名'
CALL  'VF-FILECOMP ロードモジュールライブラリ名 (JSMFPRFO)' 'PQ'
```

備考：下線付きの部分はユーザ用に修正する。

XSP ではSYSOUT DD 名をLIST DD 名に修正する。

[表示形式]

```
*****
*
*      SIMPLIA/VF-FILECOMP          V20/L20①
*
*      修正NO ***** 04/06/14
*              ②              ③      修正時刻 15.56      ④
*              ②              ③      実行ユーザ ID USER01 ⑤
*              ②              ③      実行日付 31/07/14 ⑥
*              ②              ③      実行時間 12.56.25 ⑦
*
*****
```

付図E.1 プロフィール参照用コマンドプロシジャと表示形式

①V/L : 製品名称の右にバージョンレベルが表示される。

②修正NO : 製品版は，“\*\*\*\*\*”が表示される。

修正版は，修正No.が表示される。

- ③修正日付 : 製品版または修正版の作成日が表示される。(dd/mm/yy)
- ④修正時刻 : 製品版または修正版の作成時刻が表示される。(hh. mm )
- ⑤実行ユーザ ID : 実行しているユーザIDが表示される。
- ⑥実行日付 : 実行した日付が表示される。(dd/mm/yy)
- ⑦実行時刻 : 実行した時刻が表示される。(hh. mm. ss)

## E.2 ユーザーチンへのプロフィール通知

プログラム名JSMFPRF1をユーザーチンより呼び出すことによりプロフィールを取得する。

JSMFPRF1はユーザーチンに、V/L , 修正No, 修正日付, 修正時刻, 実行ジョブ名, 実行日付および実行時刻を通知する。

[呼出形式]

CALL 'JSMFPRF1' USING パラメタ

[パラメタの内容と説明]

レベル	項目名	属性	内容
01	パラメタ		
03	依頼パラメタ		ユーザーチンで設定する領域
05	依頼入力区分	X(01)	'P' を設定
05	依頼処理形態	X(01)	'B' を設定
05	依頼ツール名	X(01)	'Q' を設定
05	FILLER	X(08)	
03	結果パラメタ		JSMFPRF1が設定する領域
05	ツール名	X(30)	'SIMPLIA/VF-FILECOMP'
05	バージョンレベル	X(06)	VF-FILECOMP のV/L
05	修正NO	X(10)	VF-FILECOMP の修正No
05	修正日付	X(08)	VF-FILECOMP の修正日付 (yy. mm. dd)
05	修正時刻	X(08)	VF-FILECOMP の修正時刻 (hh. mm )
05	FILLER	X(08)	
05	実行ジョブ名	X(08)	動作しているジョブ名
05	FILLER	X(08)	
05	実行日付	X(08)	JSMFPRF1の実行日付 (yy. mm. dd)
05	実行時刻	X(08)	JSMFPRF1の実行時刻 (hh. mm. ss)
05	リターンコード	9(02)	00: 正常 03: 入力区分エラー 04: 処理形態エラー 05: ツール名エラー
05	FILLER	X(08)	

付図E.2 JSMFPRF1の呼出形式とパラメタの内容と説明

14. プログラム修正事項

前回提供のソフトウェアに対して以下のプログラム修正が行われている。

ただし、機能追加または強化に伴う修正内容を除く。

◆参照 → 4

表14.1 プログラム修正事項（続く）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名									
1	<p>コピー句フォーマット指定機能において、計算機の日本語文字集合(拡張漢字および拡張非漢字など)が存在するコピー句を指定すると「JSMVF601-E 指定されたコピー句にエラーがあります。」のメッセージが出力される。                      (対処)                      計算機の日本語文字集合が存在するコピー句を指定できるように修正した。</p> <p>指定方法は以下のとおり。                      SYSIN制御文の@OPTIONS(オプション選択)制御文にNCWオプションを指定する。</p> $\left[ , NCW \left( \left\{ \begin{array}{l} STD \\ SYS \end{array} \right\} \right) \right]$ <p>&lt;利用者語に使用できる日本語文字集合の指定&gt;                      NCW(STD) : システム共通の日本語文字集合を使用する。                      NCW(SYS) : 計算機の日本語文字集合を使用する。                      当オペランドを省略した場合は、STDを指定したものとみなす。</p>	JSMVFK50 JSMVFK60 JSMVF302 JSMVF314 JSMVF316 JSMVF318 JSMVF322 JSMVF342 JSMVF348 JSMVF360 JSMVF362 JSMVF394									
2	<p>コピー句フォーマット指定機能において、-DATA補助制御文にJIS第一水準以外の日本語を指定すると「JSMVF146-E -DATA補助制御文に指定できない文字又は語が存在します。」または「JSMVF148-E -DATA補助制御文のREP又はJOINに指定できない文字又は語が存在します。」のメッセージが出力される。                      (対処)                      制御文にJIS第一水準以外の日本語も指定できるように修正した。</p>	JSMVF333 JSMVF377 JSMVF368									
3	<p>-DATA補助制御文に、以下に示す区切り文字の内部コードを含む日本語を指定すると「JSMVF146-E -DATA補助制御文に指定できない文字又は語が存在します。」のメッセージが出力される。</p> <table border="0" data-bbox="335 1198 662 1288"> <tr> <td>コンマ</td> <td>","</td> <td>[X' 6B' ]</td> </tr> <tr> <td>アポストロフィ</td> <td>"'"</td> <td>[X' 7D' ]</td> </tr> <tr> <td>イコール</td> <td>"="</td> <td>[X' 7E' ]</td> </tr> </table> <p>(対処)                      制御文に上記区切り文字の内部コードを含む日本語を指定できるように修正した。</p>	コンマ	","	[X' 6B' ]	アポストロフィ	"'"	[X' 7D' ]	イコール	"="	[X' 7E' ]	JSMVF333 JSMVF377 JSMVF902
コンマ	","	[X' 6B' ]									
アポストロフィ	"'"	[X' 7D' ]									
イコール	"="	[X' 7E' ]									
4	<p>新/旧データファイルに連結した区分編成データセットを指定した場合、-MOPT補助制御文で単独指定(MEMBER='メンバ名')を行うと「JSMVF617-U ユーザデータ1のアクセスでエラーが発生しました。」または「JSMVF618-U ユーザデータ2のアクセスでエラーが発生しました。」のメッセージが出力される。                      (対処)                      連結した区分編成データセットに対して、-MOPT補助制御文で単独指定できるように修正した。</p>	JSMVF9B1 JSMVF9E1 JSMVF9H1 JSMVF981									
5	<p>ファイル比較チェックリスト(ダンプ形式)出力機能において、以下の条件をすべて満たす場合、正しく比較されない。                      - 新/旧データファイルにMT媒体を指定                      - SYSIN制御文の-ITEM(比較範囲指示)補助制御文でSKIPオペランドを指定                      (対処)                      上記条件の場合でも正しく比較されるように修正した。</p>	JSMVFH30 JSMVFH42									

表14.1 プログラム修正事項（続き）

項番	プログラム修正内容	修正プログラム名
6	<p>ファイル比較チェックリスト（ダンプ形式）出力機能において、以下の条件をすべて満たす場合、S513-04(多重オープンエラー)で異常終了する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新/旧データファイルにMT媒体を指定</li> <li>・ SYSIN制御文に@COMPARE（比較条件選択）制御文を複数指定</li> <li>・ 各@COMPARE（比較条件選択）制御文の旧データファイルは正常な指定</li> <li>・ 最終の@COMPARE（比較条件選択）制御文以外で新データファイルがエラーとなる指定</li> </ul> <p>(対処) 上記条件の場合でも異常終了しないように修正した。</p>	JSMVFH36
7	<p>コピー句フォーマット指定機能において、COBOLコンパイラによるコピー句解析時にリージョン不足が発生すると、「JSMVF307-S COBOLコンパイラの呼出しに失敗しました。復帰コード=000C」が出力される</p> <p>(対処) 復帰コードが正しく出力されるように修正した。リージョン不足の場合には「106」が出力される。</p>	JSMVFK00
8	<p>SYSIN制御文結果リスト中のエラーメッセージが改ページのタイミングで出力された場合、1ページ目のヘッダ名と異なるヘッダ名“** エラー情報メッセージ **”が出力される。また、カラム見出しが出力されない。</p> <p>(対処) SYSIN制御文結果リスト中のヘッダは、1ページ目と同じヘッダ名およびカラム見出しが出力されるように修正した。</p>	JSMVF000 JSMVF942



**FUJITSU**